

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
1		基礎理化学	開講時期	1年前期	加藤 幸弘		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として30年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年)の実務経験を活かした授業で、理学療法士に特に必要となる力学について物理学的な基礎知識から学び、また人体の基本的な関節運動のメカニズムを理解し関節運動を表現できるようにする。					教科書(著者/書名/発行所) 基礎運動学 第6版補訂/医歯薬出版		
教育目標該当項目: ③④⑤					キーワード ①物理学 ②バイオメカニクス ③関節運動バイオメカニクス		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	力学の基礎	速度・加速度・変位について		加藤		
第2回	2	力学の基礎	ベクトル、円運動と並進運動について		加藤		
第3回	2	力学の基礎	ニュートンの運動法則、モーメントについて		加藤		
第4回	2	力学の基礎	仕事とエネルギー、三角比について		加藤		
第5回	2	バイオメカニクス	てこの性質、平衡について		加藤		
第6回	2	バイオメカニクス	人体の運動をてこで表現する		加藤		
第7回	2	バイオメカニクス	人体の運動をてこで表現する		加藤		
第8回	2	バイオメカニクス	練習問題、国家試験問題解説		加藤		
第9回	2	人体の仕組み	骨と関節構造、関節分類、骨格筋の構造		加藤		
第10回	2	人体の仕組み	筋線維の種類、収縮様式		加藤		
第11回	2	関節運動	肩甲帯、肩関節		加藤		
第12回	2	関節運動	肘関節、手関節、手指		加藤		
第13回	2	関節運動学	股関節		加藤		
第14回	2	関節運動学	膝関節、足関節		加藤		
第15回	2	関節運動学	頸椎、胸椎、腰椎		加藤		
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
2		コミュニケーション論	開講時期	1年前期	吉川 将太		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	授業時間	15		単位数	1 単位
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
医療従事者のコミュニケーションは、チーム医療の要であり、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。本科目では、理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、コミュニケーションの基本的スキルを身につける。また傾聴の意味を理解し、医療人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。					キーワード		
教育目標該当項目: ①②④					コミュニケーション・対人関係技法・個人情報、情報管理・プロフェッショナルリズム		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	コミュニケーションとは	接遇の5原則について理解する		吉川		
第2回	2	自分を理解する	自分の性格・態度・傾向を知る		吉川		
第3回	2	コミュニケーション力①	聞く力を養う演習①		吉川		
第4回	2	コミュニケーション力②	聞く力を養う演習②		吉川		
第5回	2	コミュニケーション力③	伝える力を養う演習		吉川		
第6回	2	話し方について	話す力を養う演習		吉川		
第7回	2	ノンバーバルコミュニケーションとは	ノンバーバルコミュニケーションについて理解する		吉川		
第8回	1	まとめ	コミュニケーションのまとめ		吉川		
評価方法		課題の提出状況(60%)及び筆記試験の結果(40%)にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	姉帯 飛高	
3		情報統計論	開講時期	1年通年	担当者	姉帯 飛高	
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
理学療法士として5年間(一般病院2年、介護老人保健施設3年)の実務経験を活かした授業で、1)レントゲン、CT、MRI等より得られた画像から必要な情報を抽出し、解釈・応用する方法を実戦的に学習する。2) 研究法や統計データの取り扱いについて学び、文献検索と客観的・批判的精読を通じて情報を取捨選択する過程を学習する。3) 文献抄読会を行い、パソコンの基本操作やプレゼンテーションの基礎を理解する。					画像解剖コンパクトナビ		
教育目標該当項目: ②③⑤					キーワード		
					画像診断、X線、CT、MRI、研究法、EBM、EBPT、記述統計一般、文献抄読、批判的吟味		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	画像医学総論	X線、CT、MRI		姉帯		
第2回	2	画像解剖学	頭部(脳)の画像解剖学		姉帯		
第3回	2	画像解剖学	脊柱(運動器)の画像解剖学		姉帯		
第4回	2	画像解剖学	上肢(運動器)の画像解剖学		姉帯		
第5回	2	画像解剖学	上肢(運動器)の画像解剖学		姉帯		
第6回	2	画像解剖学	下肢・骨盤(運動器)の画像解剖学		姉帯		
第7回	2	画像解剖学	下肢・骨盤(運動器)の画像解剖学		姉帯		
第8回	2	画像解剖学	胸部内臓の画像解剖学		姉帯		
第9回	2	研究と統計学①	研究の意義と目的、EBM、EBPT		姉帯		
第10回	2	研究と統計学②	記述統計と推測統計		姉帯		
第11回	2	文献検索とパソコンの基本操作	J-STAGE、Pubmed等の利用方法、MS Officeの使い方		姉帯		
第12回	2	文献抄読と資料作成①	文献抄読及びMS Officeを用いた発表資料作成		姉帯		
第13回	2	文献抄読と資料作成②	文献抄読及びMS Officeを用いた発表資料作成		姉帯		
第14回	2	文献抄読会①	文献抄読の成果発表		姉帯		
第15回	2	文献抄読会②	文献抄読の成果発表		姉帯		
評価方法		レポート課題、授業態度等により総合的に評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
4		心理学	開講時期	1年後期	神保 忍		
			授業時間	30			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 クライアントの状態は、「total person」の観点から理解する。そのためには、クライアントの人格、能力、発達段階、置かれている状況などをアセスメントする必要がある。さまざまな心理アセスメント方法を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 心理学/医学書院		
教育目標該当項目: ①②④					キーワード 防衛機制, 心理検査, 発達心理 臨床心理		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	心理学とは	対人援助と心理学、歴史、研究方法		神保		
第2回	2	感覚と知覚	しくみとはたらき		神保		
第3回	2	記憶	メカニズム、短期記憶と長期記憶		神保		
第4回	2	思考・言語・知能	思考とは、言語とコミュニケーション、知能とは		神保		
第5回	2	学習	古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習		神保		
第6回	2	感情と動機づけ	感情の諸相、メカニズム、動機づけ理論		神保		
第7回	2	性格とパーソナリティ	性格の理論、性格の測定		神保		
第8回	2	社会と集団	社会的認知、対人関係と対人魅力		神保		
第9回	2	発達	発達とは、乳幼児の発達		神保		
第10回	2	発達	児童・青年の発達、成人・高齢者の発達		神保		
第11回	2	心理臨床	心の適応と不適応		神保		
第12回	2	心理臨床	交流分析		神保		
第13回	2	心理臨床	心理療法		神保		
第14回	2	心理臨床	認知行動療法		神保		
第15回	2	まとめ	まとめ		神保		
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
5		人間発達学	開講時期	1年後期	小松 昌久		
			授業時間	45			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	3 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として肢体不自由児施設22年、小児専門病院3年の実務経験を活かした授業で、胎児期から老年期に至る人間の発達を通し、各発達段階における心身の成長および運動獲得について学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) イラストでわかる 人間発達学		
教育目標該当項目: ①②					キーワード 発達の基本法則、発達理論、発達段階、原始反射、姿勢反射/反応、運動発達		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	概論	発達に関わる言葉		小松		
第2回	2	発達の基本法則①	発達の方向、発達の順序など		小松		
第3回	2	発達理論①	発達段階(ライフステージ)の分類、精神分析的発達理論		小松		
第4回	2	発達理論②	リビドー発達理論、心理社会的発達論		小松		
第5回	2	発達理論③	学習理論、神経成熟理論		小松		
第6回	2	胎児期	胎児期の発達の特徴		小松		
第7回	2	胎児期	脳の形成		小松		
第8回	2	胎児期	遺伝		小松		
第9回	2	新生児期	新生児期の発達の特徴		小松		
第10回	2	新生児期	分娩による循環動態の変化		小松		
第11回	2	新生児期	新生児仮死など		小松		
第12回	2	発達検査①	発達検査について		小松		
第13回	2	発達検査②	発達検査について		小松		
第14回	2	原始反射、姿勢反射/反応①	原始反射、姿勢反射/反応について		小松		
第15回	2	原始反射、姿勢反射/反応②	原始反射、姿勢反射/反応について		小松		
第16回	2	原始反射、姿勢反射/反応③	原始反射、姿勢反射/反応について		小松		
第17回	2	運動発達①	0~3ヶ月の運動発達		小松		
第18回	2	運動発達②	4~6ヶ月の運動発達		小松		
第19回	2	運動発達③	7~9ヶ月の運動発達		小松		
第20回	2	運動発達④	10~12ヶ月の運動発達		小松		
第21回	2	運動発達⑤	13~18ヶ月の運動発達		小松		
第22回	2	運動発達⑥	学童・青年期の発達		小松		
第23回	2	運動発達⑦	成人・老年期の発達		小松		
評価方法		筆記試験(100%)にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者		
6		基礎運動学	開講時期	1年前期	加藤 幸弘		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として31年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で10年)の実務経験を活かした授業で、筋骨格・関節運動学などの基礎的知識から、人の基本的動作の構成、歩行、運動を継続する仕組みについて解剖学、生理学、その他の基礎医学での知識を統合して学習を進めていく。					教科書(著者/書名/発行所) 基礎運動学 第6版補訂/医歯薬出版 観察による歩行分析/医学書院 キーワード 栄養・運動制御・姿勢・歩行・運動学習		
教育目標該当項目: ③④⑤							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
第1回	2	生体の構造と機能	栄養とエネルギー代謝			加藤	
第2回	2	生体の構造と機能	運動の中樞神経機構			加藤	
第3回	2	生体の構造と機能	運動の中樞神経機構			加藤	
第4回	2	運動と動作の分析	運動学的分析、動作・作業分析			加藤	
第5回	2	体力と運動処方	動作分析の方法、運動処方			加藤	
第6回	2	姿勢	重心、立位姿勢の安定性			加藤	
第7回	2	姿勢	立位での姿勢戦略、姿勢分類			加藤	
第8回	2	歩行	歩行周期			加藤	
第9回	2	歩行	運動力学的分析			加藤	
第10回	2	歩行	運動力学的分析			加藤	
第11回	2	歩行	各相の運動学と運動力学①			加藤	
第12回	2	歩行	各相の運動学と運動力学②			加藤	
第13回	2	歩行	各相の運動学と運動力学③			加藤	
第14回	2	走行・階段昇降	走行・歩行周期			加藤	
第15回	2	運動学習	運動学習理論			加藤	
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	基礎	担当者	
7		生活環境論	開講時期	1年後期	植竹 教嗣	
			授業時間	60		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	4 単位 講義
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)	
理学療法士として6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験を活かした授業であり、障害の有無に関わらず人が生きていく上で最も身近で、基本的に存在する生活環境を学ぶ。障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。生活環境論では、そのための基本的な理念と知識について学習する。					理学療法テキストV 日常生活活動(ADL)第2版/医学書院 シンプル理学療法作業療法シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 南江堂	
教育目標該当項目: ①②④					キーワード 家族・家庭・住環境・地域環境・職場環境・環境の構造・環境と固体	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	生活環境学の概念	生活環境学の概念について理解する		植竹	
第2回	2	日常生活活動の概念	日常生活活動の概念や範囲を理解する		植竹	
第3回	2	基本動作	寝返り、起き上がり、立ち上がり動作を理解する		植竹	
第4回	2					
第5回	2	歩行補助具	歩行補助具の種類・機能・適応について理解する		植竹	
第6回	2					
第7回	2	車椅子	車椅子の分類・種類・指導方法について理解する		植竹	
第8回	2					
第9回	2	移乗動作	移乗動作について理解する		植竹	
第10回	2	セルフケア	セルフケアについて理解する		植竹	
第11回	2	日常生活活動の評価	日常生活活動の評価を説明できる		植竹	
第12回	2					
第13回	2	自助具	自助具の種類・機能・適応について理解する		植竹	
第14回	2					
第15回	2	生活環境を構成する要素	生活環境を構成する要素について理解する		植竹	
第16回	2	日本家屋の問題点	日本家屋においての問題点を理解する		植竹	
第17回	2	物理的環境・経済的環境	物理的環境, 経済的環境について理解する		植竹	
第18回	2	制動的環境・人的環境	制度的環境, 人的環境について理解する		植竹	
第19回	2	生活環境整備の基本①	段差・スペース・床材		植竹	
第20回	2	生活環境整備の基本②	手すり、建具		植竹	
第21回	2	玄関・アプローチの環境整備	玄関スペース、スロープ		植竹	
第22回	2	廊下・階段の環境整備	廊下の寸法、階段整備の考え方		植竹	
第23回	2	トイレの環境整備	トイレ整備の実際		植竹	
第24回	2	浴室・脱衣室・台所・食堂の環境整備	浴室への扉、浴槽		植竹	
第25回	2	住宅・住宅改修	生活環境としての住宅・住宅改修		植竹	
第26回	2	住宅改修の実践	建築知識の基本と図面化		植竹	
第27回	2	住環境整備の基本的配慮	住宅部位への配慮		植竹	
第28回	2		各部屋への配慮		植竹	
第29回	2	地域環境と公共交通	地域環境と公共交通について理解する		植竹	
第30回	2	総括	総復習と臨床応用		植竹	
評価方法		出席状況を10%、筆記試験を90%として評価する				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	
8		人体構造機能学 I	開講時期	1年前期	熊澤 真理子	
		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	授業時間	30		
科目概要・目的					単位数	2 単位
理学療法士として治療を行なうためには、人体に関する必要な知識を学ぶことは必要不可欠である。そこで、人体の構造と仕組み・機能について理解することを目的とする。					講義	
教育目標該当項目： ③⑤					教科書(著者/書名/発行所)	標準理学療法学・作業療法学 生理学 医学書院
					キーワード	細胞、感覚器、血液、体温調節、末梢神経、自律神経
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	細胞, 血液	細胞生理, 血液の成分, 血液凝固, 免疫機能		熊澤	
第2回	2	循環	循環の調節, 心筋の特性		熊澤	
第3回	2	循環	心臓拍動の自動性と心拍出量		熊澤	
第4回	2	消化と吸収	唾液分泌の機序, 嚥下運動, 胃内消化, 腸内消化		熊澤	
第5回	2	呼吸	呼吸運動, ガス交換とガスの運搬, 呼吸中枢		熊澤	
第6回	2	酸—塩基平衡	酸塩基平衡		熊澤	
第7回	2	腎臓と排泄	尿の性状, 糸球体・尿管の機能, 排尿機構		熊澤	
第8回	2	内分泌	ホルモンとビタミン		熊澤	
第9回	2	性と生殖	勃起, 射精, 排卵, 月経, 妊娠, 出産		熊澤	
第13回	2	末梢神経	末梢神経		熊澤	
第14回	2	中枢神経	中枢神経, 可塑性		熊澤	
第15回	2	自律神経	交感神経, 副交感神経		熊澤	
第16回	2	感覚	体性感覚, 内臓感覚, 視覚, 聴覚, 平衡覚, 嗅覚		熊澤	
第17回	2	代謝	代謝率, 糖・蛋白・脂質代謝		熊澤	
第18回	2	体温調節	体温調節中枢, 熱の産生と放出		熊澤	
評価方法		筆記試験100%にて評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	
9		人体構造機能学Ⅱ	開講時期	1年前期	姉帯 飛高	
			授業時間	30		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 理学療法士として5年間(一般病院2年、介護老人保健施設3年)の実務経験を活かした授業で、運動器(骨・関節・靭帯・骨格筋)それぞれの解剖学的特徴から、それらの機能を理解する。					教科書(著者/書名/発行所) グレイ解剖学 原著第4版	
教育目標該当項目: ③⑤					キーワード 運動器、骨、関節、靭帯、骨格筋、運動	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	解剖学総論	解剖学を学ぶことの意義、人体の構成単位		姉帯	
第2回	2	骨関節学	骨のマクロ構造とミクロ構造、機能、分類		姉帯	
第3回	2	骨学各論	骨学実習: 脊柱		姉帯	
第4回	2	骨学各論	骨学実習: 頭蓋		姉帯	
第5回	2	骨学各論	骨学実習: 上肢		姉帯	
第5回	2	骨学各論	骨学実習: 下肢・骨盤		姉帯	
第7回	2	筋学総論	筋のマクロ構造とミクロ構造、機能、分類		姉帯	
第8回	2	筋学各論	頭頸部・体幹の骨格筋		姉帯	
第9回	2	筋学各論	頭頸部・体幹の骨格筋		姉帯	
第10回	2	筋学各論	上肢の骨格筋		姉帯	
第11回	2	筋学各論	上肢の骨格筋		姉帯	
第12回	2	筋学各論	上肢の骨格筋		姉帯	
第13回	2	筋学各論	下肢の骨格筋		姉帯	
第14回	2	筋学各論	下肢の骨格筋		姉帯	
第15回	2	筋学各論	下肢の骨格筋		姉帯	
評価方法		筆記試験100%にて評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	
10		人体構造機能学Ⅲ	開講時期	1年前期	姉帯 飛高	講義
			授業時間	30		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 理学療法士として5年間(一般病院2年、介護老人保健施設3年)の実務経験を活かした授業で、中枢神経系と末梢神経系の基本構成について学習し、これらの疾患に応用する基本的知識を習得する。					教科書(著者/書名/発行所) ハインズ神経解剖学アトラス	
教育目標該当項目: ③⑤					キーワード 中枢神経、末梢神経、伝導路、脳神経、脊髄神経、神経叢	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	神経解剖学総論	ニューロン、中枢神経、末梢神経		姉帯	
第2回	2	脳と脊髄の解剖学	大脳の基本構成と機能、脳溝、脳回、脳葉		姉帯	
第3回	2	脳と脊髄の解剖学	大脳の機能局在		姉帯	
第4回	2	脳と脊髄の解剖学	間脳・脳幹・小脳の基本構成		姉帯	
第5回	2	脳と脊髄の解剖学	脊髄の基本構成、頸膨大、腰膨大		姉帯	
第6回	2	脳と脊髄の解剖学	神経線維構築、連合線維、交連線維、投射線維		姉帯	
第7回	2	伝導路の解剖学	錐体路、錐体外路の基本構成		姉帯	
第8回	2	伝導路の解剖学	下行性伝導路:皮質脊髄路、皮質核路		姉帯	
第9回	2	伝導路の解剖学	上行性伝導路:脊髄視床路、後索内側毛帯系		姉帯	
第10回	2	脳神経の解剖学	脳神経の基本構成と機能		姉帯	
第11回	2	脳神経の解剖学	顔面頭蓋と鰓弓神経		姉帯	
第12回	2	脊髄神経の解剖学	脊髄神経の基本構成(肋間神経)		姉帯	
第13回	2	脊髄神経の解剖学	頸腕神経叢の基本構成		姉帯	
第14回	2	脊髄神経の解剖学	腰仙骨神経叢の基本構成		姉帯	
第15回	2	自律神経の解剖学	交感神経、副交感神経、交感神経幹、大内臓神経		姉帯	
評価方法		筆記試験100%にて評価する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
11		人体構造機能学Ⅳ	開講時期	1年前期	姉帯 飛高		
			授業時間	30時間			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として5年間(一般病院2年、介護老人保健施設3年)の実務経験を活かした授業で、循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器の基本構造を学び、これらの疾患に応用する基本的知識を習得する。					教科書(著者/書名/発行所) グレイ解剖学 原著第4版		
教育目標該当項目: ③⑤					キーワード 心臓、刺激伝導系、大循環、小循環、呼吸器、呼吸運動、ガス交換、消化器、泌尿生殖器		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	内臓系総論	体腔と内臓		姉帯		
第2回	2	心大血管系の解剖学	心臓の基本構造、大循環、小循環		姉帯		
第3回	1	心大血管系の解剖学	胎児循環、冠状動脈、冠状静脈洞、刺激伝導系		姉帯		
第4回	2	四肢・体幹の動脈・静脈	主要動静脈、触診、門脈系		姉帯		
第5回	1	頭部の動静脈	ウィリスの大脳動脈輪、硬膜静脈洞		姉帯		
第6回	2	呼吸器の解剖学	呼吸路の基本構造		姉帯		
第7回	2	呼吸器の解剖学	肺の基本構造、胸膜洞、呼吸運動		姉帯		
第8回	2	消化器の解剖学	消化器の基本構造と機能		姉帯		
第9回	2	消化器の解剖学	消化管の基本構造と機能、上皮組織		姉帯		
第10回	1	消化器の解剖学	消化腺の基本構造と機能、門脈、胆汁路		姉帯		
第11回	2	泌尿生殖器の解剖学	尿路の基本構造と機能、性差		姉帯		
第12回	2	泌尿生殖器の解剖学	腎臓のマクロ・ミクロ構造、ネフロン		姉帯		
第13回	1	泌尿生殖器の解剖学	外生殖器と内生殖器、内分泌系		姉帯		
第14回	2	局所解剖学実習	動物標本による局所解剖学実習		姉帯		
第15回	2	局所解剖学実習	動物標本による局所解剖学実習		姉帯		
評価方法	筆記試験100%にて評価する。						

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
12		人体構造機能学Ⅴ	開講時期	1年前期	植竹 教嗣		
			授業時間	90			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	6 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験を活かした授業であり、人体構造機能学で学ぶ筋・骨・神経や運動学について、動画コンテンツやアプリケーションなどのオンデマンド授業を通じて、理解を深めていく。					教科書(著者/書名/発行所)		
教育目標該当項目: ②③					キーワード 上肢の骨と筋、下肢の骨と筋、頸部・体幹の骨と筋 中枢神経、伝導路 運動		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	1	オリエンテーション (オンデマンド)	動画コンテンツ、アプリケーションなどの使用方法を理解する。SNSを含む使用する際の注意点を理解する		植竹		
第2回	1				植竹		
第3回	1				植竹		
第4回	1				植竹		
第5回	1				植竹		
第6回	1	骨・筋・神経 (オンデマンド授業)	骨の名称や各部位の名称を理解する 筋の起始や停止、作用、神経支配を理解する 神経の名称や伝導路を理解する		植竹		
第7回	1				植竹		
第8回	1				植竹		
第9回	1				植竹		
第10回	1				植竹		
第11回	1				植竹		
第12回	1				植竹		
第13回	1				植竹		
第14回	1				植竹		
第15回	1				植竹		
第16回	1				植竹		
第17回	1				植竹		
第18回	1				植竹		
第19回	1				植竹		
第20回	1				植竹		
第21回	1				植竹		
第22回	1				植竹		
第23回	1				植竹		
第24回	1				植竹		
第25回	1				植竹		
第26回	1	解剖分野 (オンデマンド授業)	骨格系、筋系、神経系、脈管系、内臓諸器官などの各分野において理解を深める。		植竹		
第27回	1				植竹		
第28回	1				植竹		
第29回	1				植竹		
第30回	1				植竹		
第31回	1				植竹		
第32回	1				植竹		
第33回	1				植竹		
第34回	1				植竹		
第35回	1				植竹		
第36回	1				植竹		
第37回	1				植竹		
第38回	1				植竹		
第39回	1				植竹		
第40回	1				植竹		
第41回	1				植竹		
第42回	1				植竹		
第43回	1				植竹		
第44回	1				植竹		
第45回	1				植竹		
第46回	1				植竹		
第47回	1				植竹		

第48回	1	解剖分野 (オンデマンド授業)	骨格系、筋系、神経系、脈管系、内臓諸器官などの各分野において理解を深める。	植竹
第49回	1			植竹
第50回	1			植竹
第51回	1			植竹
第52回	1			植竹
第53回	1			植竹
第54回	1			植竹
第55回	1			植竹
第56回	1			植竹
第57回	1			植竹
第58回	1			植竹
第59回	1			植竹
第60回	1			植竹
第61回	1			植竹
第62回	1			植竹
第63回	1			植竹
第64回	1			植竹
第65回	1			植竹
第66回	1			植竹
第67回	1			植竹
第68回	1			植竹
第69回	1			植竹
第70回	1			植竹
第71回	1			植竹
第72回	1			植竹
第73回	1			植竹
第74回	1			植竹
第75回	1			植竹
第76回	1			運動学分野 (オンデマンド授業)
第77回	1	植竹		
第78回	1	植竹		
第79回	1	植竹		
第80回	1	植竹		
第81回	1	植竹		
第82回	1	植竹		
第83回	1	植竹		
第84回	1	植竹		
第85回	1	植竹		
第86回	1	植竹		
第87回	1	植竹		
第88回	1	植竹		
第89回	1	植竹		
第90回	1	植竹		
評価方法	出席状況、小テスト、筆記試験等をルーブリック評価を用いて総合的に評価する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
13		精神疾患論	開講時期	1年後期	神保 忍		
		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	授業時間	30		単位数	1 単位
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
理学療法の実施にあたって、根幹となる精神障害者の心理および行動特性を理解しておくことが重要である。精神障害をもたらす精神疾患の病状・成因や診断・治療について理解し、それらを基に理学療法士としての精神障害者への社会生活面での援助のあり方を習得する。					上野武治 編 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版」 医学書院		
教育目標該当項目: ③⑤①					キーワード		
					こころ, 統合失調症, うつ病, ストレス 関連障害, 精神遅滞, てんかん		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	精神医学とは	定義、概念、歴史		神保		
第2回	2	精神機能の障害と症状	意識、知能、感情、欲動の障害、主な精神状態像		神保		
第3回	2	精神障害の診断と評価	診断法、身体的検査、心理検査、精神症状の評価		神保		
第4回	2	脳器質性精神障害	概念、症状の特徴、主な疾患		神保		
第5回	2	症状性精神障害	基本症状、主な疾患		神保		
第6回	2	精神作用物質による障害	アルコール、薬物依存		神保		
第7回	2	てんかん	概念、症状、精神症状		神保		
第8回	2	統合失調症および関連疾患	疫学、特徴、病態		神保		
第9回	2	気分障害	主な病型、経過および予後		神保		
第10回	2	神経症性障害	捉え方、主な障害		神保		
第11回	2	生理的・身体的障害	摂食障害、非器質性睡眠障害		神保		
第12回	2	パーソナリティー・行動・性の障	成人のパーソナリティ及び行動(習慣・行動)の障害		神保		
第13回	2	精神遅滞	概念、分類、主な疾患		神保		
第14回	2	心理的発達障害	分類、概念		神保		
第15回	2	ライフサイクルにおける精神医	小児・青年・成人・老年期の精神障害		神保		
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
14		基礎病態論	開講時期	1年通年	持田 誠		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として一般病院で12年間の実務経験を活かした授業で、基礎医学領域と臨床医学領域の間に位置し、解剖生理学的知識をもとに様々な疾病の成因や病態を明らかにしようとする学問である。神経・運動器疾患やその他の疾患の成因や病態を理解しておくことは、理学療法を学ぶ上で重要であり、理解する必要がある。 教育目標該当項目： ③④					教科書(著者/書名/発行所) カラーで学べる病理学 第4版/ヌーヴェルヒロカワ キーワード 炎症、アレルギー、進行性・退行性病変、腫瘍、奇形・遺伝病		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	細胞組織とその障害	基礎医学系確認		持田		
第2回	2	細胞組織とその障害	変性、壊死、虚血、萎縮		持田		
第3回	2	再生と修復	損傷治癒		持田		
第4回	2	再生と修復	損傷治癒		持田		
第5回	2	循環障害	充血、うっ血、出血と凝固		持田		
第6回	2	循環障害	高血圧・梗塞、浮腫		持田		
第7回	2	炎症	炎症メカニズム		持田		
第8回	2	炎症	急性・慢性炎症		持田		
第9回	2	免疫とアレルギー	免疫系について		持田		
第10回	2	免疫とアレルギー	免疫系について		持田		
第11回	2	感染症	細菌性とウイルス性について		持田		
第12回	2	代謝異常	基礎医学系確認		持田		
第13回	2	代謝異常	代表的疾患		持田		
第14回	2	腫瘍	腫瘍の違いについて		持田		
第15回	2	腫瘍	腫瘍の違いについて		持田		
評価方法		課題、授業の取り組み、筆記試験にて総合的に評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者	持田 太郎 瀬戸 勲
15		内部障害論	開講時期	2年前期	担当者	持田 太郎 瀬戸 勲
			授業時間	30		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 理学療法士として5年間(一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年)の実務経験を活かした授業で、吸引やAEDの使用方法について学ぶ。また、薬物の作用機序や副作用などについても学習する。この領域は生命に与える影響が大きく、リスク管理についても厳格に進めなければならない。そのため、正しい知識の習得が目標となる。					教科書(著者/書名/発行所) キーワード 吸引、救命救急、薬物療法	
教育目標該当項目: ①②③						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	吸引	吸引について		瀬戸	
第2回	2	吸引	吸引がモデルを用いて実施できる		瀬戸	
第3回	2	一次救命処置(BLS)	一次救命処置(BLS)について		瀬戸	
第4回	2	一次救命処置(BLS)	一次救命処置(BLS)について		瀬戸	
第5回	2	一次救命処置(BLS)	AEDの使用方法		瀬戸	
第6回	2	一次救命処置(BLS)	AEDの使用方法		瀬戸	
第7回	2	薬物の基本的事項	薬物の作用機序、体内動態など		持田	
第8回	2	薬物の基本的事項	薬物の作用機序、体内動態など		持田	
第9回	2	対象疾患に対する薬物療法	各対象疾患に対する薬物療法について		持田	
第10回	2	対象疾患に対する薬物療法	各対象疾患に対する薬物療法について		持田	
第11回	2	薬物の副作用	薬物の副作用について		持田	
第12回	2	薬物の副作用	薬物の副作用について		持田	
第13回	2	まとめ	まとめ		瀬戸	
第14回	2	まとめ	まとめ		瀬戸	
第15回	2	まとめ	まとめ		瀬戸	
評価方法		筆記試験、提出課題、出席状況などで総合的に判断する。				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
16		機能障害論	開講時期	1年後期	加藤 幸弘		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として31年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で10年)の実務経験を活かした授業で、身体機能の障害を理解することは理学療法を行う上で重要となる。疼痛のメカニズム、各器官における機能とその障害について生理学の復習を兼ねて理解する。					教科書(著者/書名/発行所) 特に定めない		
教育目標該当項目: ①③④					キーワード 痛み, 肺の機能, 心臓の機能, 関節拘縮		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	痛み	疼痛の発生と抑制のメカニズム		加藤		
第2回	2	痛み	急性痛とは		加藤		
第3回	2	痛み	慢性痛とは		加藤		
第4回	2	痛み	様々な痛みの病態		加藤		
第5回	2	呼吸器疾患	呼吸の生理学、呼吸不全とは		加藤		
第6回	2	呼吸器疾患	臨床検査所見、COPD、外科手術後の肺合併症		加藤		
第7回	2	循環器疾患	心機能とその障害		加藤		
第8回	2	循環器疾患	心不全と心機能障害		加藤		
第9回	2	老年期特有の障害	老化現象のうち、生理機能について理解する		吉川		
第10回	2	老年期特有の障害	老化現象のうち、生理機能について理解する		吉川		
第11回	2	老年期特有の障害	老化現象のうち、運動機能について理解する		吉川		
第12回	2	老年期特有の障害	老化現象のうち、運動機能について理解する		吉川		
第13回	2	老年期特有の疾患	老年症候群、虚弱、サルコペニア、末梢循環障害		吉川		
第14回	2	老年期特有の疾患	老年症候群、虚弱、サルコペニア、末梢循環障害		吉川		
第15回	2	老年期特有の疾患	誤嚥性肺炎、転倒について理解する		吉川		
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
17		整形障害論	開講時期	2年前期	加藤 幸弘		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として31年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で10年)の実務経験を活かした授業で、リハビリテーションで、対象となる主に骨関節障害の病態を画像とともに理解し、一般的に行われている整形外科的治療を理解する。					教科書(著者/書名/発行所) 標準整形外科学 第15版/医学書院		
教育目標該当項目: ①③④					キーワード ①関節リウマチ ②変形性関節症 ③脊椎疾患 ④骨折・脱臼 ⑤運動器画像		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	整形外科の基礎科学	骨・関節・関節軟骨の構造、病態病理・修復と再生		加藤		
第2回	2	整形外科診断・治療総論	診療の基本、検査、保存療法、手術療法		加藤		
第3回	2	整形外科疾患総論	感染症、関節リウマチとその類縁疾患		加藤		
第4回	2	整形外科疾患総論	変形性関節症とその類縁疾患、四肢循環障害		加藤		
第5回	2	整形外科疾患総論	代謝性骨疾患、骨・軟部腫瘍		加藤		
第6回	2	整形外科疾患各論	肩関節、肘関節		加藤		
第7回	2	整形外科疾患各論	手関節と手		加藤		
第8回	2	整形外科疾患各論	頸椎、胸郭、腰椎		加藤		
第9回	2	整形外科疾患各論	股関節、膝関節		加藤		
第10回	2	整形外科疾患各論	足関節と足		加藤		
第11回	2	整形外科外傷学	外傷総論、軟部組織損傷		加藤		
第12回	2	整形外科外傷学	成人の骨折と脱臼		加藤		
第13回	2	整形外科外傷学	成人の骨折と脱臼		加藤		
第14回	2	整形外科外傷学	小児の骨折		加藤		
第15回	2	整形外科外傷学	脊椎損傷、末梢神経損傷		加藤		
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
18		臨床病態論	開講時期	1年後期	持田 誠		
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4 単位	講義
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
理学療法士として一般病院で12年間の実務経験を活かした授業で、病理学の基礎、様々な症候に対して行われる画像検査、生化学検査、生理検査などの諸検査の所見を学ぶ。					カラーで学べる病理学 第4版/ヌーヴェルヒロカワ		
教育目標該当項目: ①③④					キーワード		
					心筋梗塞、狭心症、心不全、弁膜症、膵炎、肝炎、胆嚢炎		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	循環器系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第2回	2	循環器系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第3回	2	循環器系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第4回	2	循環器系	心筋梗塞、狭心症、弁膜症、心不全		持田		
第5回	2	循環器系	血管疾患		持田		
第6回	2	呼吸器系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第7回	2	呼吸器系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第8回	2	呼吸器系	循環不全、呼吸不全		持田		
第9回	2	呼吸器系	炎症性疾患		持田		
第10回	2	消化器系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第11回	2	消化器系	食道、胃、腸病変		持田		
第12回	2	消化器系	膵炎、肝炎、胆嚢炎		持田		
第13回	2	内分泌系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第14回	2	内分泌系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第15回	2	内分泌系	主な疾患		持田		
第16回	2	造血系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第17回	2	造血系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第18回	2	造血系	造血性疾患		持田		
第19回	2	造血系	免疫性疾患		持田		
第20回	2	腎泌尿器系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第21回	2	腎泌尿器系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第22回	2	腎泌尿器系	主な疾患		持田		
第23回	2	脳神経系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第24回	2	脳神経系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第25回	2	感覚器系	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第26回	2	脳神経系	主な疾患		持田		
第27回	2	感覚器系	主な疾患		持田		
第28回	2	生殖器・乳腺・その他	関連した基礎医学系知識の確認		持田		
第29回	2	生殖器・乳腺・その他	主な疾患		持田		
第30回	2	生殖器・乳腺・その他	主な疾患		持田		
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
19		神経障害論	開講時期	2年前期	担当者	茂木 真	
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、各論として、神経筋疾患を中心にその病因・病態・治療・予後について学習する。特に、リハビリテーション医療対象の難病などについては重要である。					教科書(著者/書名/発行所) 川平和美/標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版/医学書院		
教育目標該当項目: ①③④					キーワード 脳血管障害・神経難病・画像評価(脳CT・MRI・脳波等)・薬物療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	神経症候学①	意識障害、頭痛、めまい、錐体路徴候		茂木		
第2回	2	神経症候学②	錐体外路徴候、運動失調		茂木		
第3回	2	神経症候学③	感覚障害		茂木		
第4回	2	神経症候学④	失語症、失認、失行		茂木		
第5回	2	神経症候学⑤	記憶障害、注意障害、遂行機能障害		茂木		
第6回	2	神経症候学⑥	構音障害、嚥下障害		茂木		
第7回	2	神経症候学⑦	頭蓋内圧亢進、脳浮腫、髄膜刺激症状		茂木		
第8回	2	脳血管障害①	総論(血管などの脳循環や疫学)を理解する。		茂木		
第9回	2	脳血管障害②	虚血性脳血管障害について理解する。		茂木		
第10回	2	認知症	中核症状、周辺症状について理解する。		茂木		
第11回	2	脳腫瘍	症状、治療法について理解する。		茂木		
第12回	2	錐体外路の変性疾患	主症状や薬物療法、経過について理解する。		茂木		
第13回	2	てんかん	部分発作と全体発作		茂木		
第14回	2	筋疾患、末梢神経障害	病態、症状について理解する。		茂木		
第15回	2	感染性・中毒性疾患	各疾患の病態生理や主症状について理解する。		茂木		
評価方法		筆記試験にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
20		リハビリテーション概論Ⅰ	開講時期	1年前期	瀬戸 勲		
			授業時間	30			
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	単位数	2単位	講義		
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
理学療法士として5年間(一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年)の実務経験を活かした授業で、理学療法士の立場から保健・医療・福祉に関わる業務を実施する上で必要となる諸制度について理解する。					庄本康治/PT・OTビジュアルテキスト		
また、理学療法の対象者の様々なニーズに対応できるように、保健・医療・福祉に係る法制度の動向やサービスの内容を理解する。					理学療法概論/羊土社		
教育目標該当項目:					キーワード		
①②④					リハビリテーション、バリアフリー、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザイン、QOL、医療・福祉制度、法規、個人情報保護法、医療安全、クリニカルパス、EBM、ICIDH、ICF		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	理学療法・リハビリテーションとは	概念・定義・歴史・目的を理解する		瀬戸		
第2回	2	リハビリテーションに影響を与えた理念・思想	ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・QOLについて理解する		瀬戸		
第3回	2	理学療法士を取り巻く法令制度	「理学療法士及び作業療法士法」と理学療法士に関わる医療関連の法律について理解する		瀬戸		
第4回	2	理学療法士を取り巻く法令制度	「理学療法士及び作業療法士法」と理学療法士に関わる医療関連の法律について理解する		瀬戸		
第5回	2	個人情報の管理と対象者の権利	個人情報保護法について理解する		瀬戸		
第6回	2	個人情報の管理と対象者の権利	カルテや記録の保管・管理について理解する		瀬戸		
第7回	2	理学療法に関わる国際分類	ICIDH・ICFについて理解する		瀬戸		
第8回	2	理学療法に関わる国際分類	ICIDH・ICFを実践することで理解を深める		瀬戸		
第9回	2	クリニカルパス・EBM	クリニカルパス・EBMについて理解する		瀬戸		
第10回	2	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントについて理解する		瀬戸		
第11回	2	医療事故とリスクマネジメント	医療事故とリスクマネジメントについて理解する		瀬戸		
第12回	2	医療事故とリスクマネジメント	医療事故とリスクマネジメントについて理解する		瀬戸		
第13回	2	理学療法の対象	理学療法の対象疾患や障害を理解する		瀬戸		
第14回	2	理学療法の対象	対象者との関わり方について理解する		瀬戸		
第15回	2	まとめ	まとめ		瀬戸		
評価方法		筆記試験、提出課題、グループワークでの取り組み、出席状況などで総合的に判断する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門基礎	担当者		
21		多職種連携論	開講時期	1年前期	瀬戸 勲		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 患者・家族に対して最適な医療を効率的に提供するためには、職種間協働に基づく「チーム医療」の推進が必要である。理学療法士として5年間(一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年)の実務経験を活かした授業で、健康・医療・福祉の専門職を目指す者として、対象者を中心としたチーム医療の意義、他職種連携を通じた調整や教育的役割を担う能力を学ぶ。 教育目標該当項目: ①②④					教科書(著者/書名/発行所) キーワード チーム医療、地域理学療法、医療・福祉制度、法規、医療安全、感染予防、難病		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	チーム医療の中での専門職種	医療・福祉の専門職種について理解する		瀬戸		
第2回	2	チーム医療の中での専門職種	医療・福祉の専門職種について理解する		瀬戸		
第3回	2	多職種連携	組織やリハビリテーション・チームにおけるPTの役割と他職種との連携について理解する		瀬戸		
第4回	2	多職種連携	組織やリハビリテーション・チームにおけるPTの役割と他職種との連携について理解する		瀬戸		
第5回	2	社会保障制度	医療保険制度・介護保険制度などについて理解する		瀬戸		
第6回	2	社会保障制度	医療保険制度・介護保険制度などについて理解する		瀬戸		
第7回	2	施設基準と診療報酬	理学療法に係る施設基準と診療報酬について理解する		瀬戸		
第8回	2	社会福祉の分野とサービス	社会福祉六法について理解する		瀬戸		
第9回	2	障害者手帳	各種法律・手帳について理解する		瀬戸		
第10回	2	高齢者の医療の確保に関する法律・健康増進法	高齢者の医療の確保に関する法律・健康増進法について理解する		瀬戸		
第11回	2	難病	国の難病対策について理解する		瀬戸		
第12回	2	感染予防	感染予防について理解する		瀬戸		
第13回	2	感染予防	感染予防について理解する		瀬戸		
第14回	2	地域理学療法・地域包括ケアシステム	地域理学療法・地域包括ケアシステムについて理解する		瀬戸		
第15回	2	理学療法士を目指す学生に求められるもの	理学療法士を目指す学生に求められるものについて理解する		瀬戸		
評価方法		筆記試験、提出課題、グループワークでの取り組み、出席状況などで総合的に判断する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	持田 誠
22		理学療法総論	開講時期	1年後期	担当者	持田 誠
			授業時間	60		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位
科目概要・目的 理学療法士として一般病院で12年間の実務経験を活かした授業で、生理学や人間発達、精神心理、内部障害について、オンデマンド授業を通じて、理解を深めていく。 教育目標該当項目： ②③					教科書(著者/書名/発行所) キーワード 呼吸、神経、循環、消化、排尿、排便、内分泌、生殖、発達、精神、心理、内部障害	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	1	生理学分野 (オンデマンド)	呼吸、神経、循環、消化、排尿、排便、内分泌、生殖などの各分野において理解を深める		持田	
第2回	1				持田	
第3回	1				持田	
第4回	1				持田	
第5回	1				持田	
第6回	1				持田	
第7回	1				持田	
第8回	1				持田	
第9回	1				持田	
第10回	1				持田	
第11回	1				持田	
第12回	1				持田	
第13回	1				持田	
第14回	1				持田	
第15回	1				持田	
第16回	1	人間発達学分野 (オンデマンド)	各期における発達の理解を深める		持田	
第17回	1				持田	
第18回	1				持田	
第19回	1				持田	
第20回	1	精神医学および臨床心理分野 (オンデマンド)	精神医学および臨床心理分野において理解を深める		持田	
第21回	1				持田	
第22回	1				持田	
第23回	1				持田	
第24回	1				持田	
第25回	1				持田	
第26回	1				持田	
第27回	1				持田	
第28回	1				持田	
第29回	1				持田	
第30回	1				持田	
第31回	1				持田	
第32回	1				持田	
第33回	1				持田	
第34回	1				持田	
第35回	1				持田	
第36回	1	内部障害分野 (オンデマンド)	呼吸器、循環器、消化管、肝胆膵疾患、腎・泌尿器疾患などの各疾患の理解を深める		持田	
第37回	1				持田	
第38回	1				持田	
第39回	1				持田	
第40回	1				持田	
第41回	1				持田	
第42回	1				持田	
第43回	1				持田	
第44回	1				持田	
第45回	1				持田	
第46回	1				持田	
第47回	1	持田				

第48回	1	内部障害分野 (オンデマンド)	呼吸器、循環器、消化管、肝胆膵疾患、腎・泌尿器 疾患などの各疾患の理解を深める	持田
第49回	1			持田
第50回	1			持田
第51回	1			持田
第52回	1			持田
第53回	1			持田
第54回	1			持田
第55回	1			持田
第56回	1	その他 (オンデマンド)	その他の分野の理解を深める	持田
第57回	1			持田
第58回	1			持田
第59回	1			持田
第60回	1			持田
評価方法	出席状況、小テスト、筆記試験等をルーブリック評価を用いて総合的に評価する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
23		臨床運動学	開講時期	2年前期	加藤 幸弘		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	演習
科目概要・目的 そこで理学療法士として31年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で10年)の実務経験を活かした授業で、基本動作を可能にするメカニズムを理解し、臨床現場で高頻度にみられる逸脱・代償動作観察を行い、原因を推論する能力を学高める。					教科書(著者/書名/発行所) 動作分析 臨床活用講座/メジカルビュー		
教育目標該当項目: ③⑤					キーワード 基本動作メカニズム、相分け、逸脱動作、動作観察		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	動作分析総論	目的、姿勢制御のバイオメカニクス		加藤		
第2回	2	寝返り動作	普遍的特性、動作のシーケンス、メカニズム		加藤		
第3回	2	寝返り動作	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論		加藤		
第4回	2	起き上がり動作	普遍的特性、動作のシーケンス、メカニズム		加藤		
第5回	2	起き上がり動作	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論		加藤		
第6回	2	起き上がり動作	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論		加藤		
第7回	2	立ち上がり動作	普遍的特性、動作のシーケンス、メカニズム		加藤		
第8回	2	立ち上がり動作	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論		加藤		
第9回	2	立ち上がり動作	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論		加藤		
第10回	2	歩行	普遍的特性、動作のシーケンス		加藤		
第11回	2	歩行	動作を可能にするメカニズム		加藤		
第12回	2	歩行	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論		加藤		
第13回	2	歩行	正常パターンからの逸脱所見の解釈と推論		加藤		
第14回	2	歩行	歩行の観察を記載する		加藤		
第15回	2	総括	まとめ		加藤		
評価方法		出席状況、課題への取り組み、筆記試験にて総合的に評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
24		日常生活活動学	開講時期	2年通年	植竹 教嗣		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	授業時間	90		単位数	3 単位
科目概要・目的 理学療法士として6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験を活かした授業で、障害者・高齢者が生活をする地域社会、在宅生活の環境の中でQOLに密接に関わるものであり、リハビリテーションにおける重要な概念を学ぶ。それを理解し、各疾患毎のADL指導の実際について理解を深める。 教育目標該当項目: ①②④⑤					教科書(著者/書名/発行所) 理学療法学テキストV 日常生活活動(ADL) 第2版 キーワード 基本動作、身の回り動作、IADL、福祉用具、家族への指導		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	ADLと運動学	症例の動作分析とADL指導について理解する		植竹		
第2回	2						
第3回	2	ADLと運動学	症例の動作分析とADL指導について理解する②		植竹		
第4回	2						
第5回	2	ADL評価法	疾患別にADL評価を理解する		植竹		
第6回	2						
第7回	2	各疾患のADL指導①	片麻痺のADL指導について理解する		植竹		
第8回	2						
第9回	2	各疾患のADL指導②	片麻痺のIADL指導について理解する		植竹		
第10回	2						
第11回	2	各疾患のADL指導③	神経筋疾患・難病のADL指導①について理解する		植竹		
第12回	2						
第13回	2	各疾患のADL指導④	神経筋疾患・難病のADL指導②について理解する		植竹		
第14回	2						
第15回	2	各疾患のADL指導⑤	神経筋疾患・難病のADL指導③について理解する		植竹		
第16回	2						
第17回	2	各疾患のADL指導⑥	頭部外傷のADL指導について理解する		植竹		
第18回	2						
第19回	2	各疾患のADL指導⑦	脊髄損傷のADL指導について理解する①		植竹		
第20回	2						
第21回	2	各疾患のADL指導⑧	脊髄損傷のADL指導について理解する②		植竹		
第22回	2						
第23回	2	各疾患のADL指導⑨	人工股関節術後のADL指導について理解する		植竹		
第24回	2						
第25回	2	各疾患のADL指導⑩	関節リウマチのADL指導について理解する		植竹		
第26回	2						
第27回	2	各疾患のADL指導⑪	切断のADL指導について理解する		植竹		
第28回	2						
第29回	2	各疾患のADL指導⑫	慢性腰痛のADL指導について理解する		植竹		
第30回	2						

第31回	2	各疾患のADL指導⑬	呼吸器疾患のADL指導について理解する	植竹
第32回	2			
第33回	2	各疾患のADL指導⑭	循環器疾患のADL指導について理解する	植竹
第34回	2			
第35回	2	各疾患のADL指導⑮	高齢者のADL指導について理解する	植竹
第36回	2			
第37回	2	各疾患のADL指導⑯	その他疾患のADL指導について理解する	植竹
第38回	2			
第39回	2	車椅子・歩行器・杖・自助具	疾患別に福祉用具を理解する	植竹
第40回	2			
第41回	2	基本動作介助	疾患別に基本動作の介助方法を理解する	植竹
第42回	2			
第43回	2	トランスファー介助	疾患別に移乗動作を理解する	植竹
第44回	2			
第45回	2	総括	まとめ	植竹
評価方法		出席状況、課題、実技試験、筆記試験を用いて総合的に評価する		

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
25		理学療法管理学	開講時期	3年前期	加藤 幸弘		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として31年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で10年)の実務経験を活かした授業で、地域全体のリハビリテーションに関わる機会が多いため、その拠点となるリハビリテーション科の組織を強化する必要がある。組織の能力を最大限に発揮する具体的な管理・教育について学び、理解を深める。 教育目標該当項目: ①②③					教科書(著者/書名/発行所) PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション管理学 第1版 キーワード 組織と関連法規、職業倫理、リスク管理、管理・運営		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	管理学とは	社会科学からみた管理学		加藤		
第2回	2	管理学とは	医療・看護における管理学		加藤		
第3回	1	管理学とは	リハビリテーションにおける管理学		加藤		
第4回	2	組織と関連法規	法のしくみ、組織と関連法規の鳥瞰図		加藤		
第5回	2	組織と関連法規	各組織と関連法規の基礎知識		加藤		
第6回	1	組織と関連法規	各組織と関連法規の基礎知識		加藤		
第7回	2	職業倫理	倫理とは		加藤		
第8回	2	職業倫理	理学療法士の倫理		加藤		
第9回	1	職業倫理	対象者の権利・尊厳		加藤		
第10回	2	リスク管理	有害事象とは		加藤		
第11回	2	リスク管理	対象者・家族からのクレーム		加藤		
第12回	1	リスク管理	ハラスメント		加藤		
第13回	2	リスク管理	ハラスメント		加藤		
第14回	2	リスク管理	職員のメンタルヘルス・マネジメント		加藤		
第15回	1	リスク管理	職員のメンタルヘルス・マネジメント		加藤		
第16回	2	病院、介護保険における管理・運営	人事・人材、職員教育		加藤		
第17回	2	病院、介護保険における管理・運営	業務・情報		加藤		
第18回	1	病院、介護保険における管理・運営	物品管理、収益		加藤		
評価方法		出席状況40%、課題内容60%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	茂木 真	
26		理学療法評価法Ⅰ	開講時期	1年通年	担当者	茂木 真	
			授業時間	120			
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	4単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、理学療法評価の意義・目的について学習する。実技を通してバイタル測定、形態測定、関節可動域測定法、徒手筋力検査法を学ぶ。					教科書(著者/書名/発行所) 松澤 正 / 理学療法評価学 改訂第6版 / 金原出版株式会社 他		
教育目標該当項目: ③④⑤					キーワード 理学療法評価および各検査測定の意義・目的・方法、バイタル測定、形態測定、関節可動域測定、筋力検査		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	理学療法評価とは	評価の意義・目的・過程①		茂木		
第2回	2	理学療法評価とは	評価の意義・目的・過程②		茂木		
第3回	2	情報収集	患者情報等の情報収集①		茂木		
第4回	2	情報収集	患者情報等の情報収集②		茂木		
第5回	2	バイタルサイン	バイタルサインの定義・目的		茂木		
第6回	2	バイタルサイン	検査、測定方法		茂木		
第7回	2	形態測定	形態測定の意義、目的・概要		茂木		
第8回	2	形態測定	身体測定と体格指数、四肢長・周径		茂木		
第9回	2	関節可動域測定	関節可動域測定の定義、目的		茂木		
第10回	2	関節可動域測定	関節可動域測定法の概要		茂木		
第11回	2	関節可動域測定	股関節の測定法①		茂木		
第12回	2	関節可動域測定	股関節の測定法②		茂木		
第13回	2	関節可動域測定	膝関節・足関節・足部の測定法①		茂木		
第14回	2	関節可動域測定	膝関節・足関節・足部の測定法②		茂木		
第15回	2	関節可動域測定	肩関節の測定法①		茂木		
第16回	2	関節可動域測定	肩関節の測定法②		茂木		
第17回	2	関節可動域測定	肘関節・前腕の測定法①		茂木		
第18回	2	関節可動域測定	肘関節・前腕の測定法②		茂木		
第19回	2	関節可動域測定	手関節・手指の測定法①		茂木		
第20回	2	関節可動域測定	手関節・手指の測定法②		茂木		
第21回	2	関節可動域測定	肩甲帯の測定法①		茂木		
第22回	2	関節可動域測定	肩甲帯の測定法②		茂木		
第23回	2	関節可動域測定	頸部・胸腰部の測定法①		茂木		
第24回	2	関節可動域測定	頸部・胸腰部の測定法②		茂木		
第25回	2	関節可動域測定	関節可動域測定のまとめ①		茂木		
第26回	2	関節可動域測定	関節可動域測定のまとめ②		茂木		
第27回	2	関節可動域測定	関節可動域測定のまとめ③		茂木		
第28回	2	関節可動域測定	関節可動域測定のまとめ④		茂木		
第29回	2	関節可動域測定	関節可動域測定のまとめ⑤		茂木		
第30回	2	関節可動域測定	関節可動域測定のまとめ⑥		茂木		
第31回	2	徒手筋力検査	筋力検査の概要		茂木		
第32回	2	徒手筋力検査	徒手筋力検査の概要①		茂木		
第33回	2	徒手筋力検査	股関節の筋力検査①		茂木		
第34回	2	徒手筋力検査	股関節の筋力検査②		茂木		
第35回	2	徒手筋力検査	膝関節の筋力検査①		茂木		
第36回	2	徒手筋力検査	膝関節の筋力検査②		茂木		
第37回	2	徒手筋力検査	足関節・足部の筋力検査①		茂木		
第38回	2	徒手筋力検査	足関節・足部の筋力検査②		茂木		
第39回	2	徒手筋力検査	下肢徒手筋力検査まとめ①		茂木		
第40回	2	徒手筋力検査	下肢徒手筋力検査まとめ②		茂木		
第41回	2	徒手筋力検査	肩甲骨周囲筋の筋力検査①		茂木		
第42回	2	徒手筋力検査	肩甲骨周囲筋の筋力検査②		茂木		
第43回	2	徒手筋力検査	肩関節の筋力検査①		茂木		
第44回	2	徒手筋力検査	肩関節の筋力検査②		茂木		
第45回	2	徒手筋力検査	肘関節・前腕・手関節・手指の筋力検査①		茂木		
第46回	2	徒手筋力検査	肘関節・前腕・手関節・手指の筋力検査②		茂木		
第47回	2	徒手筋力検査	上肢徒手筋力検査まとめ①		茂木		
第48回	2	徒手筋力検査	上肢徒手筋力検査まとめ②		茂木		

第49回	2	徒手筋力検査	体幹の筋力検査①	茂木
第50回	2	徒手筋力検査	体幹の筋力検査②	茂木
第51回	2	徒手筋力検査	頭頸部の筋力検査①	茂木
第52回	2	徒手筋力検査	頭頸部の筋力検査②	茂木
第53回	2	徒手筋力検査	頭頸部の筋力検査①	茂木
第54回	2	徒手筋力検査	頭頸部の筋力検査②	茂木
第55回	2	徒手筋力検査	脳神経支配筋の検査①	茂木
第56回	2	徒手筋力検査	脳神経支配筋の検査②	茂木
第57回	2	徒手筋力検査	徒手筋力検査のまとめ①	茂木
第58回	2	徒手筋力検査	徒手筋力検査のまとめ②	茂木
第59回	2	徒手筋力検査	徒手筋力検査のまとめ③	茂木
第60回	2	徒手筋力検査	徒手筋力検査のまとめ④	茂木
評価方法	課題の結果を10%、筆記試験の結果を40%、実技試験の結果を50%として評価する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	瀬戸 勲
27		理学療法評価法Ⅱ	開講時期	2年前期	担当者	瀬戸 勲
			授業時間	120		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	4 単位
科目概要・目的 理学療法士として5年間(一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年)の実務経験を活かした授業で、理学療法で実施する各評価の意義と目的、方法と結果の記録について説明する。さらに、各種評価結果の解釈・統合の方法を学び、疾患の症状について理解を深める。またオンデマンド授業を通じて各分野の理解を深める。 教育目標該当項目: ②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所) 松澤正/理学療法評価学/金原出版 キーワード 疼痛、反射、筋緊張、脳神経、片麻痺、認知機能、高次脳、協調性、姿勢反射、バランス、ADL	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	2	疼痛検査	疼痛について		瀬戸	
第2回	2	疼痛検査	疼痛検査および検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第3回	2	知覚検査	知覚について		瀬戸	
第4回	2	知覚検査	表在・深部・複合感覚検査		瀬戸	
第5回	2	知覚検査	知覚検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第6回	2	反射検査	深部腱反射・病的反射について		瀬戸	
第7回	2	反射検査	深部腱反射・病的反射検査および検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第8回	2	筋緊張検査	筋緊張について		瀬戸	
第9回	2	筋緊張検査	被動性・懸振性検査および検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第10回	2	脳神経検査	脳神経について		瀬戸	
第11回	2	脳神経検査	脳神経検査		瀬戸	
第12回	2	脳神経検査	各検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第13回	2	片麻痺運動機能検査	共同運動・連合反応・片麻痺運動障害の特徴について		瀬戸	
第14回	2	片麻痺運動機能検査	ブルンストロームテスト		瀬戸	
第15回	2	片麻痺運動機能検査	12段階式片麻痺機能テスト		瀬戸	
第16回	2	片麻痺運動機能検査	脳卒中機能評価法(SIAS)		瀬戸	
第17回	2	片麻痺運動機能検査	各検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第18回	2	認知機能検査	認知機能について		瀬戸	
第19回	2	認知機能検査	HDS-R、MMSEおよび検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第20回	2	高次脳機能検査	高次脳機能について		瀬戸	
第21回	2	高次脳機能検査	高次脳機能検査および検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第22回	2	協調性検査	協調運動障害について		瀬戸	
第23回	2	協調性検査	協調性検査および検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第24回	2	姿勢反射検査	姿勢反射について		瀬戸	
第25回	2	姿勢反射検査	姿勢反射検査および検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第26回	2	バランス検査	バランスについて		瀬戸	
第27回	2	バランス検査	ロンベルグ試験・マン試験・片脚立位試験		瀬戸	
第28回	2	バランス検査	FRT・BBS・TUG		瀬戸	
第29回	2	整形外科疾患検査	体幹部疾患検査		瀬戸	
第30回	2	整形外科疾患検査	上肢疾患検査		瀬戸	
第31回	2	整形外科疾患検査	上肢疾患検査		瀬戸	
第32回	2	整形外科疾患検査	下肢疾患検査		瀬戸	
第33回	2	整形外科疾患検査	下肢疾患・その他の疾患の検査		瀬戸	
第34回	2	呼吸・循環・代謝検査	呼吸・循環機能検査について		瀬戸	
第35回	2	呼吸・循環・代謝検査	呼吸・循環機能検査		瀬戸	
第36回	2	呼吸・循環・代謝検査	各検査結果の記録、解釈		瀬戸	
第37回	2	評価結果の統合と解釈	各評価のつながりについて		瀬戸	
第38回	2	評価結果の統合と解釈	統合と解釈について		瀬戸	
第39回	2	評価結果の統合と解釈	統合と解釈について		瀬戸	
第40回	2	まとめ	まとめ		瀬戸	
第41回	2	まとめ	まとめ		瀬戸	
第42回	2	まとめ	まとめ		瀬戸	
第43回	2	まとめ	まとめ		瀬戸	
第44回	2	まとめ	まとめ		瀬戸	
第45回	1				瀬戸	
第46回	1				瀬戸	
第47回	1	ふり返り (オンデマンド授業)	呼吸器疾患の理解を深める		瀬戸	
第48回	1				瀬戸	
第49回	1				瀬戸	

第50回	1	ふり返り (オンデマンド授業)	循環器疾患の理解を深める	瀬戸
第51回	1			瀬戸
第52回	1			瀬戸
第53回	1			瀬戸
第54回	1			瀬戸
第55回	1			瀬戸
第56回	1		瀬戸	
第57回	1		代謝疾患の理解を深める	瀬戸
第58回	1			瀬戸
第59回	1			瀬戸
第60回	1			瀬戸
第61回	1			瀬戸
第62回	1			瀬戸
第63回	1		骨関節疾患の理解を深める	瀬戸
第64回	1			瀬戸
第65回	1			瀬戸
第66回	1			瀬戸
第67回	1			瀬戸
第68回	1			瀬戸
第69回	1		瀬戸	
第70回	1		瀬戸	
第71回	1		瀬戸	
第72回	1		瀬戸	
第73回	1		瀬戸	
第74回	1		瀬戸	
第75回	1		瀬戸	
第76回	1		瀬戸	
評価方法	筆記試験、実技試験、提出課題、グループワークでの取り組み、出席状況、小テストなどで総合的に判断する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	加藤 幸弘 専任教員全員	
28		理学療法評価法Ⅲ	開講時期	3年前期	担当者	加藤 幸弘 専任教員全員	
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	授業時間	90			
科目概要・目的					単位数	3単位	演習
理学療法士として30年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で9年)の実務経験を活かした授業を中心に、各症例情報をもとに基礎的知識を確認し、障害像から評価項目の立案、評価方法の検討、さらに正確性・再現性・妥当性のある理学療法評価の実施、評価結果の解釈について展開していく。					教科書(著者/書名/発行所)		
教育目標該当項目: ①②③④⑤					キーワード		
					基礎知識、理学療法評価、統合と解釈、リスク管理、画像評価		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	理学療法評価の流れ①	一般的情報、医学的情報、社会的情報について		専任教員		
第2回	2	理学療法評価の流れ②	理学療法評価項目の立案、検討、結果の解釈		専任教員		
第3回	2	整形(膝関節疾患)症例①	膝関節に関する基礎知識の確認①		専任教員		
第4回	2	整形(膝関節疾患)症例②	膝関節疾患に関する病態の整理①		専任教員		
第5回	2	整形(膝関節疾患)症例③	膝関節疾患に関する病態の整理②		専任教員		
第6回	2	整形(膝関節疾患)症例④	膝関節疾患に対する理学療法評価①		専任教員		
第7回	2	整形(膝関節疾患)症例⑤	膝関節疾患に対する理学療法評価②		専任教員		
第8回	2	整形(膝関節疾患)症例⑥	膝関節疾患に対する理学療法評価③		専任教員		
第9回	2	整形(膝関節疾患)症例⑦	膝関節疾患に対する統合と解釈①		専任教員		
第10回	2	整形(膝関節疾患)症例⑧	膝関節疾患に対する統合と解釈②		専任教員		
第11回	2	整形(膝関節疾患)症例⑨	膝関節疾患に対する統合と解釈③		専任教員		
第12回	2	整形(股関節疾患)症例①	股関節に関する基礎知識の確認①		専任教員		
第13回	2	整形(股関節疾患)症例②	股関節疾患に関する病態の整理①		専任教員		
第14回	2	整形(股関節疾患)症例③	股関節疾患に関する病態の整理②		専任教員		
第15回	2	整形(股関節疾患)症例④	股関節疾患に対する理学療法評価①		専任教員		
第16回	2	整形(股関節疾患)症例⑤	股関節疾患に対する理学療法評価②		専任教員		
第17回	2	整形(股関節疾患)症例⑥	股関節疾患に対する理学療法評価③		専任教員		
第18回	2	整形(股関節疾患)症例⑦	股関節疾患に対する統合と解釈①		専任教員		
第19回	2	整形(股関節疾患)症例⑧	股関節疾患に対する統合と解釈②		専任教員		
第20回	2	整形(股関節疾患)症例⑨	股関節疾患に対する統合と解釈③		専任教員		
第21回	2	中枢(片麻痺)症例①	片麻痺疾患に関する基礎知識の確認①		専任教員		
第22回	2	中枢(片麻痺)症例②	片麻痺疾患に関する病態の整理①		専任教員		
第23回	2	中枢(片麻痺)症例③	片麻痺疾患に関する病態の整理②		専任教員		
第24回	2	中枢(片麻痺)症例④	片麻痺疾患に対する理学療法評価①		専任教員		
第25回	2	中枢(片麻痺)症例⑤	片麻痺疾患に対する理学療法評価②		専任教員		
第26回	2	中枢(片麻痺)症例⑥	片麻痺疾患に対する理学療法評価③		専任教員		
第27回	2	中枢(片麻痺)症例⑦	片麻痺疾患に対する統合と解釈①		専任教員		
第28回	2	中枢(片麻痺)症例⑧	片麻痺疾患に対する統合と解釈②		専任教員		
第29回	2	中枢(片麻痺)症例⑨	片麻痺疾患に対する統合と解釈③		専任教員		
第30回	2	中枢(片麻痺)症例⑩	片麻痺疾患に対する統合と解釈④		専任教員		
第31回	2	中枢(片麻痺)症例⑪	片麻痺疾患に対する統合と解釈⑤		専任教員		
第32回	2	中枢(片麻痺)症例⑫	片麻痺疾患に対する統合と解釈⑥		専任教員		
第33回	2	中枢(片麻痺)症例⑬	片麻痺疾患に対する統合と解釈⑦		専任教員		
第34回	2	中枢(片麻痺)症例⑭	片麻痺疾患に対するまとめ		専任教員		
第35回	2	中枢(片麻痺)症例⑮	片麻痺疾患に対するまとめ		専任教員		
第36回	2	神経筋(パーキンソン病)症例①	パーキンソン病に関する基礎知識の確認①		専任教員		
第37回	2	神経筋(パーキンソン病)症例②	パーキンソン病に関する病態の整理①		専任教員		
第38回	2	神経筋(パーキンソン病)症例③	パーキンソン病に関する病態の整理②		専任教員		
第39回	2	神経筋(パーキンソン病)症例④	パーキンソン病に対する理学療法評価		専任教員		
第40回	2	神経筋(パーキンソン病)症例⑤	パーキンソン病に対する統合と解釈①		専任教員		
第41回	2	神経筋(パーキンソン病)症例⑥	パーキンソン病に対する統合と解釈②		専任教員		
第42回	2	リスク管理について①	各疾患に対する症状別のリスク管理①		専任教員		
第43回	2	リスク管理について②	各疾患に対する症状別のリスク管理②		専任教員		
第44回	2	リスク管理について③	各疾患に対する症状別のリスク管理③		専任教員		
第45回	2	リスク管理について④	各疾患に対する症状別のリスク管理④		専任教員		
評価方法		筆記試験50%、実技試験50%で判定する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
29		理学療法評価演習	開講時期	3年通年	瀬戸 勲 専任教員全員		
			授業時間	90			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	3単位	演習
科目概要・目的 理学療法士としての実務経験を活かした授業で、模擬患者に対し各領域の理学療法評価の立案、正確性・再現性・妥当性のある評価の実施と記録、結果の解釈を行い、理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習する。 教育目標該当項目: ①②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所) キーワード 理学療法評価、評価項目立案、評価の実施、記録、解釈、リスク管理		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施		専任教員		
第2回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施		専任教員		
第3回	1	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施		専任教員		
第4回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施		専任教員		
第5回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施		専任教員		
第6回	1	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施		専任教員		
第7回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施		専任教員		
第8回	2	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施		専任教員		
第9回	1	理学療法評価の実施	バイタル測定、形態測定などの基本的な理学療法評価の実施		専任教員		
第10回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第11回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第12回	1	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第13回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第14回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第15回	1	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第16回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第17回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第18回	1	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第19回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第20回	2	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第21回	1	理学療法評価の実施	中枢、整形領域の理学療法評価の実施		専任教員		
第22回	2	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施		専任教員		
第23回	2	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施		専任教員		
第24回	1	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施		専任教員		
第25回	2	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施		専任教員		
第26回	2	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施		専任教員		
第27回	1	理学療法評価の実施	理学療法評価全般の実施		専任教員		
第28回	2	理学療法評価の立案	各疾患に対する理学療法評価の立案		専任教員		
第29回	2	理学療法評価の立案	各疾患に対する理学療法評価の立案		専任教員		
第30回	1	理学療法評価の立案	各疾患に対する理学療法評価の立案		専任教員		
第31回	2	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第32回	2	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第33回	1	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第34回	2	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第35回	2	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第36回	1	脳血管疾患に対する理学療法評価	脳血管疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第37回	2	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第38回	2	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第39回	1	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第40回	2	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第41回	2	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第42回	1	運動器疾患に対する理学療法評価	運動器疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第43回	2	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第44回	2	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第45回	1	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価	脳血管・運動器疾患に対する理学療法評価の実施		専任教員		
第46回	2	総括①	まとめ①		専任教員		

第47回	2	総括②	まとめ②	専任教員
第48回	1	総括③	まとめ③	専任教員
第49回	2	総括④	まとめ④	専任教員
第50回	2	総括⑤	まとめ⑤	専任教員
第51回	1	総括⑥	まとめ⑥	専任教員
第52回	2	総括⑦	まとめ⑦	専任教員
第53回	2	総括⑧	まとめ⑧	専任教員
第54回	1	総括⑨	まとめ⑨	専任教員
評価方法	授業への取り組み、提出課題、出席状況などで総合的に判断する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
30		基礎運動療法学	開講時期	2年前期	植竹 教嗣		
			授業時間	45			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	3 単位	講義
科目概要・目的 理学療法士として6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験を活かした授業で、理学療法を行う上での可動域、筋力、平衡機能などの基礎知識について学習する。基本的な介入手段・各障害に対しての運動療法を学び、リスク管理についても学習する。					教科書(著者/書名/発行所) 運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版		
教育目標該当項目: ③④					キーワード 運動療法, 関節可動域運動, 筋力増強運動, ストレッチング, 筋再教育, 筋持久力, リスク管理		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	運動療法	関節可動域制限に対する運動療法		植竹		
第2回	2	運動療法					
第3回	2	運動療法	筋力低下に対する運動療法		植竹		
第4回	2	運動療法					
第5回	2	運動療法	持久力低下に対する運動療法		植竹		
第6回	2	運動療法					
第7回	2	運動療法	感覚障害に対する運動療法		植竹		
第8回	2	運動療法					
第9回	2	運動療法	痛みに対しての運動療法		植竹		
第10回	2	運動療法					
第11回	2	運動療法	姿勢障害に対する運動療法		植竹		
第12回	2	運動療法					
第13回	2	運動療法	バランス障害に対する運動療法		植竹		
第14回	2	運動療法					
第15回	2	運動療法	協調性障害に対する運動療法		植竹		
第16回	2	運動療法					
第17回	2	運動療法	加齢による機能障害に対する運動療法		植竹		
第18回	2	運動療法					
第19回	2	運動療法	リスク管理		植竹		
第20回	2	運動療法					
第21回	2	運動療法	各種の治療手技		植竹		
第22回	2	運動療法					
第23回	1	総括	総復習と臨床応用		植竹		
評価方法		筆記試験を100%として評価する					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
31		整形障害理学療法	開講時期	2年後期	加藤 幸弘		
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として31年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で10年)の実務経験を活かした授業で、整形障害領域の障害の特徴を理解し、理学療法プログラムの選択について、機能形態学・運動機能学の観点から説明ができるようになることを目的とする。					教科書(著者/書名/発行所) 運動器障害 理学療法学 I・II/中山書店 キーワード ①運動器疾患病態 ②運動器疾患評価 ③運動器疾患理学療法		
教育目標該当項目: ②③④⑤							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	組織再生・修復	各組織の再生・修復過程		加藤		
第2回	2	組織再生・修復	治療理論		加藤		
第3回	2	骨折と脱臼	総論		加藤		
第4回	2	骨折と脱臼	高齢者の四大骨折:上肢骨折		加藤		
第5回	2	骨折と脱臼	高齢者の四大骨折:大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折		加藤		
第6回	2	骨折と脱臼	高齢者の四大骨折の評価と治療		加藤		
第7回	2	骨折と脱臼	高齢者の四大骨折の評価と治療		加藤		
第8回	1	変形性関節症	総論:股関節、膝関節		加藤		
第9回	2	変形性関節症	保存療法における評価と治療		加藤		
第10回	2	変形性関節症	保存療法における評価と治療		加藤		
第11回	1	人工股・膝関節置換術	総論		加藤		
第12回	2	人工股・膝関節置換術	術後の評価と治療		加藤		
第13回	2	人工股・膝関節置換術	術後の評価と治療、ADL指導		加藤		
第14回	1	関節リウマチ	総論		加藤		
第15回	2	関節リウマチ	評価と治療、ADL指導		加藤		
第16回	2	末梢神経損傷	総論、評価と治療		加藤		
第17回	2	頸部疾患	総論		加藤		
第18回	2	頸部疾患	評価と治療		加藤		
第19回	1	腰部疾患	総論		加藤		
第20回	2	腰部疾患	評価と治療		加藤		
第21回	2	脊椎手術	総論、評価と治療		加藤		
第22回	2	肩関節周囲炎	総論		加藤		
第23回	2	肩関節周囲炎	評価と治療		加藤		
第24回	1	肩の外傷	腱板断裂、外傷性肩関節脱臼、関節唇損傷		加藤		
第25回	2	肩の外傷	評価と治療		加藤		
第26回	1	靭帯損傷と半月板損傷	前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷、半月板損傷の総論		加藤		
第27回	2	靭帯損傷と半月板損傷	前十字靭帯再建術後の評価、治療		加藤		
第28回	1	靭帯損傷と半月板損傷	後十字靭帯、内側側副靭帯、半月板損傷の評価と治療		加藤		
第29回	2	捻挫と肉離れ	足関節外側側副靭帯、ハムストリングス肉離れの総論		加藤		
第30回	2	捻挫と肉離れ	評価と治療		加藤		
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	茂木 真	
32		神経障害理学療法	開講時期	2年後期	担当者	茂木 真	
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で解剖学・神経内科学で学んだ中枢神経疾患に関する知識を整理・再確認をし、さらに理学療法との関係や意義を理解する。また中枢神経障害病態生理を理解し、機能回復のための基本的な理学療法についての知識を身につけることを目標とする。 教育目標該当項目： ②③⑤					教科書(著者/書名/発行所) Closslink理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I・II MEDICAL VIEW社		
					キーワード 脳血管障害、PD、SCD、ALS、MS TBI、脳腫瘍、認知障害、 高次脳機能障害		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	大脳の構造と機能	大脳皮質、海馬、大脳基底核		茂木		
第2回	2	能の血管	構造、動脈について		茂木		
第3回	2	画像	脳画像		茂木		
第4回	2	脳のシステム	脳幹、間脳、中脳		茂木		
第5回	2	脳血管障害の理学療法	脳梗塞の分類、発症リスク、脳出血、くも膜下出血		茂木		
第6回	2	脳血管障害の理学療法	医師による治療、理学療法評価、リスク管理		茂木		
第7回	2	片麻痺患者の治療①	片麻痺患者の急性期①		茂木		
第8回	2	片麻痺患者の治療②	片麻痺患者の急性期②		茂木		
第9回	2	片麻痺患者の治療③	片麻痺患者の回復期①		茂木		
第10回	2	片麻痺患者の治療④	片麻痺患者の回復期②		茂木		
第11回	2	片麻痺患者の治療⑤	片麻痺患者の生活期①		茂木		
第12回	2	片麻痺患者の治療⑥	片麻痺患者の生活期②		茂木		
第13回	2	外傷性脳損傷・脳腫瘍	重症度に合わせたリハビリテーション		茂木		
第14回	2	外傷性脳損傷・脳腫瘍	重症度に合わせたリハビリテーション		茂木		
第15回	2	脊髄疾患	重症度に合わせたリハビリテーション		茂木		
第16回	2	脊髄疾患	重症度に合わせたリハビリテーション		茂木		
第17回	2	パーキンソン病	運動障害と非運動障害のリハビリテーション		茂木		
第18回	2	パーキンソン病	重症度や薬に合わせたリハビリテーション		茂木		
第19回	2	脊髄小脳変性症	協調運動障害のリハビリテーション		茂木		
第20回	2	脊髄小脳変性症	SCDの分類ごとのリハビリテーション		茂木		
第21回	2	筋ジストロフィー	重症度に合わせたリハビリテーション		茂木		
第22回	2	筋ジストロフィー	重症度に合わせたリハビリテーション		茂木		
第23回	2	筋萎縮性側索硬化症	重症度に合わせたリハビリテーション		茂木		
第24回	2	多発性硬化症	重症度に合わせたリハビリテーション		茂木		
第25回	2	ギランバレー症候群	重症度に合わせたリハビリテーション		茂木		
第26回	2	ギランバレー症候群	重症度に合わせたリハビリテーション		茂木		
第27回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際①		茂木		
第28回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際②		茂木		
第29回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際③		茂木		
第30回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際④		茂木		
評価方法		筆記試験80%、レポート課題20%で評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
33		内部障害理学療法	開講時期	2年後期	江原 裕作		
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として総合病院15年間の実務経験を活かした授業で、循環器、呼吸器、代謝系疾患による機能障害に対する理学療法を学ぶため、基礎的な解剖、生理、内科学の知識を確認しながら理学療法を実践できるよう学んでいく。この領域は生命に与える影響が大きい疾患が含まれ、リスク管理についても厳格に進めなければならないため、正しい知識の習得が目標となる。					教科書(著者/書名/発行所) PT・OTビジュアルテキスト 内部障害理学療法学 第1版 キーワード ①検査測定 ②内部障害 ③心血管疾患 ④呼吸器疾患 ⑤糖尿病		
教育目標該当項目: ②③⑤							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	循環器疾患に対する理学療法	心不全の症状		江原		
第2回	2	循環器疾患に対する理学療法	心不全の評価		江原		
第3回	2	循環器疾患に対する理学療法	虚血性心疾患の症状		江原		
第4回	2	循環器疾患に対する理学療法	虚血性心疾患の評価		江原		
第5回	2	循環器疾患に対する理学療法	心臓カテーテル・胸部レントゲン・心エコー検査		江原		
第6回	2	循環器疾患に対する理学療法	循環器疾患に対する薬物療法		江原		
第7回	2	循環器疾患に対する理学療法	心肺運動負荷試験		江原		
第8回	2	循環器疾患に対する理学療法	リスク管理について		江原		
第9回	2	循環器疾患に対する理学療法	循環器疾患に対する運動療法		江原		
第10回	2	循環器疾患に対する理学療法	循環器疾患に対する運動療法		江原		
第11回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患の症状		江原		
第12回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患の症状		江原		
第13回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	リスク管理について		江原		
第14回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	胸部レントゲン検査・CT・MRI検査		江原		
第15回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	呼吸器疾患に対する薬物療法		江原		
第16回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	人工呼吸器について		江原		
第17回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	在宅酸素療法		江原		
第18回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	フィールドテスト		江原		
第19回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	術前術後の呼吸理学療法		江原		
第20回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	排痰療法		江原		
第21回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	排痰療法		江原		
第22回	2	呼吸器疾患に対する理学療法	排痰療法		江原		
第23回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の症状		江原		
第24回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病の検査所見		江原		
第25回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病に対する薬物療法		江原		
第26回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病に対する運動処方		江原		
第27回	2	代謝疾患に対する理学療法	糖尿病に対する運動処方		江原		
第28回	2	がんに対する理学療法	各病期に対する介入方法		江原		
第29回	2	がんに対する理学療法	リンパ浮腫		江原		
第30回	2	がんに対する理学療法	リスク管理について		江原		
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	江原 裕作	
34		物理療法学	開講時期	2年前期	担当者	江原 裕作	
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として総合病院15年間の実務経験を活かした授業で、基本的な物理刺激が、物理療法として人体にどのように働くのかを理解し、各治療法の適応・禁忌・注意点を理解する。 また、各治療機器を用いて実習を行い、治療を行えるようにする。					教科書(著者/書名/発行所) 標準理学療法学・作業療法学 専門 分野物理療法学		
教育目標該当項目: ③④⑤					キーワード 電気刺激療法・電磁波療法・光線療法・超音波療法・水治療法・牽引療法		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	総論	物理療法の定義		江原		
第2回	2	総論	痛みの生理学と病理学		江原		
第3回	2	総論	関節可動域制限		江原		
第4回	2	温熱療法	温熱療法に必要な物理学		江原		
第5回	2	温熱療法	温熱療法に必要な生理学		江原		
第6回	2	温熱療法	ホットパック		江原		
第7回	2	温熱療法	パラフィン浴		江原		
第8回	2	温熱療法	温熱療法まとめ		江原		
第9回	2	水治療法	総論・全身浴について		江原		
第10回	2	水治療法	部分浴について		江原		
第11回	2	水治療法	水治療法まとめ		江原		
第12回	2	超短波療法	適応と効果、禁忌、注意事項		江原		
第13回	2	極超短波療法	総論、適応と効果		江原		
第14回	2	極超短波療法	禁忌、注意事項		江原		
第15回	2	寒冷療法	総論、適応と効果		江原		
第16回	2	寒冷療法	禁忌、注意事項		江原		
第17回	2	光線療法	光線の物理学、レーザー療法		江原		
第18回	2	光線療法	赤外線療法		江原		
第19回	2	光線療法	紫外線療法		江原		
第20回	2	超音波療法	総論		江原		
第21回	2	超音波療法	適応と効果、禁忌、注意事項		江原		
第22回	2	超音波療法	超音波療法の実際		江原		
第23回	2	電気刺激療法	総論		江原		
第24回	2	電気刺激療法	低周波療法①について		江原		
第25回	2	電気刺激療法	低周波療法②について		江原		
第26回	2	牽引療法	頸椎牽引、腰椎牽引について		江原		
第27回	2	圧迫療法	総論、適応と効果		江原		
第28回	2	まとめ	症例に即した物理療法の実際		江原		
第29回	2	まとめ	症例に即した物理療法の実際		江原		
第30回	2	まとめ	症例に即した物理療法の実際		江原		
評価方法		筆記試験100%で評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
35		義肢・装具学	開講時期	2年前期	吉川 将太		
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 義肢が十分な機能を発揮し、患者のADLが向上するためには、各職種間のコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、様々な義肢の適応と特性、セッティングについて理解することを目標とする。装具療法の意義・目的等を学習する。上下肢、体幹装具の種類について、また適合判定・適応について学習する。					教科書(著者/書名/発行所) PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学 第2版/羊土社 キーワード 切断、大腿義足、股義足、下腿義足 上肢装具、下肢装具、靴型装具、体幹装具、末梢神経障害、脳卒中片麻痺		
教育目標該当項目: ②③⑤							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	切断	切断・先天性奇形・幻肢について		吉川		
第2回	2	切断	切断・先天性奇形・幻肢について		吉川		
第3回	2	切断	切断・先天性奇形・幻肢について		吉川		
第4回	2	義肢に関する基本的事項	義肢の分類・ソケットの適合・アライメント		吉川		
第5回	2	義肢に関する基本的事項	義肢の分類・ソケットの適合・アライメント		吉川		
第6回	2	義足に関する基本的事項	義足の種類と適応		吉川		
第7回	2	義足に関する基本的事項	義足の種類と適応		吉川		
第8回	2	大腿義足①	大腿義足のベンチアライメント・静的アライメント		吉川		
第9回	2	大腿義足②	大腿義足の動的アライメント		吉川		
第10回	2	大腿義足③	大腿義足の動的アライメント		吉川		
第11回	2	股義足・下腿義足	各義足の特徴、制作、継手の処方等について		吉川		
第12回	2	股義足・下腿義足	各義足の特徴、制作、継手の処方等について		吉川		
第13回	2	股義足・下腿義足	各義足の特徴、制作、継手の処方等について		吉川		
第14回	2	異常歩行	異常歩行について		吉川		
第15回	2	異常歩行	異常歩行について		吉川		
第16回	2	装具の意義	総論		吉川		
第17回	2	装具の意義	給付制度		吉川		
第18回	2	装具の意義	力学的基礎		吉川		
第19回	2	上肢装具	尺骨神経麻痺に対する装具		吉川		
第20回	2	上肢装具	橈骨神経麻痺に対する装具		吉川		
第21回	2	上肢装具	正中神経麻痺に対する装具		吉川		
第22回	2	下肢装具	構成部品とチェックアウト		吉川		
第23回	2	下肢装具	足継手		吉川		
第24回	2	下肢装具	プラスチック装具と金属支柱付き装具		吉川		
第25回	2	体幹装具	頸椎疾患の装具		吉川		
第26回	2	体幹装具	胸腰椎疾患の装具		吉川		
第27回	2	靴型装具	靴の基本構造		吉川		
第28回	2	靴型装具	踵・靴底の補正		吉川		
第29回	2	疾患別の装具療法	脊椎側彎症の装具・関節リウマチの装具		吉川		
第30回	2	疾患別の装具療法	小児疾患の装具		吉川		
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	吉原 旦容 堤 俊介	
36		小児理学療法	開講時期	2年後期	担当者	吉原 旦容 堤 俊介	
			授業時間	60			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	2 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として総合病院16年間の実務経験を活かした授業で、種々の疾患の発症要因と病態を理解する。また、頻度の高い小児疾患の病態と疾患の特徴を理解し、それらに対する対応を系統的かつ全人的に学ぶ。さらに、障害を有した小児に対する医学的な評価法と理学療法の概略を学ぶ。小児期の各疾患治療・療法を通じてチーム医療の重要性を学ぶ。 教育目標該当項目: ②③⑤					教科書(著者/書名/発行所) イラストでわかる 小児理学療法		
					キーワード 脳性麻痺、二分脊椎、水頭症、悪性腫瘍、遺伝子、染色体異常、系統疾患		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	脳性麻痺	脳性麻痺の概要		外部講師		
第2回	2	脳性麻痺	各病型に対する理解と運動療法		外部講師		
第3回	2	脳性麻痺	各病型に対する理解と運動療法		外部講師		
第4回	2	二分脊椎	二分脊椎の発生原因や疾患の特徴について		外部講師		
第5回	2	二分脊椎	二分脊椎に対する運動療法		外部講師		
第6回	2	水頭症・悪性腫瘍	各疾患に対する理解と運動療法		外部講師		
第7回	2	水頭症・悪性腫瘍	各疾患に対する理解と運動療法		外部講師		
第8回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	先天性奇形、Down症候群について		外部講師		
第9回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	各疾患に対する理解と運動療法		外部講師		
第10回	2	遺伝子・染色体異常・系統疾患	各疾患に対する理解と運動療法		外部講師		
第11回	2	発達評価、子供のコミュニケーション	発達評価について		外部講師		
第12回	2	発達評価、子供のコミュニケーション	子どものコミュニケーションについて		外部講師		
第13回	2	発達評価、子供のコミュニケーション	子どものコミュニケーションについて		外部講師		
第14回	2	重症心身障がい児	重症心身障がいの概要		外部講師		
第15回	2	重症心身障がい児	重症心身障がい児の運動療法		外部講師		
第16回	2	重症心身障がい児	重症心身障がい児の運動療法		外部講師		
第17回	2	呼吸リハビリ	子どもの呼吸リハビリ		外部講師		
第18回	2	呼吸リハビリ	子どもの呼吸リハビリ		外部講師		
第19回	2	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーの概要		外部講師		
第20回	2	筋ジストロフィー	各病期に対する運動療法		外部講師		
第21回	2	筋ジストロフィー	各病期に対する運動療法		外部講師		
第22回	2	車椅子、日常生活用具	車椅子と日常生活用具について		外部講師		
第23回	2	車椅子、日常生活用具	車椅子と日常生活用具について		外部講師		
第24回	2	車椅子、日常生活用具	車椅子と日常生活用具について		外部講師		
第25回	2	在宅医療とリハビリ	子どもの在宅医療について		外部講師		
第26回	2	在宅医療とリハビリ	子どもの在宅医療について		外部講師		
第27回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際①		外部講師		
第28回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際②		外部講師		
第29回	2	ケーススタディ	理学療法の理論と実際③		外部講師		
第30回	2	総括	まとめ		外部講師		
評価方法		筆記試験100%にて評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
37		理学療法各論	開講時期	2年前期	植竹 教嗣		
			授業時間	30			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	演習
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)		
理学療法士として6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験を活かした授業で、基本的な理学療法や評価学について、動画コンテンツやアプリケーションなどのオンデマンド授業を通じて、理解を深めていく。					キーワード		
教育目標該当項目: ②③					理学療法の基本、バイタル測定、関節可動域、筋力、形態測定		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	1	基礎理学療法 (オンデマンド)	理学療法の基礎を理解する		植竹		
第2回	1				植竹		
第3回	1				植竹		
第4回	1				植竹		
第5回	1				植竹		
第6回	1				植竹		
第7回	1				植竹		
第8回	1				植竹		
第9回	1				植竹		
第10回	1				植竹		
第11回	1				植竹		
第12回	1				植竹		
第13回	1				植竹		
第14回	1				植竹		
第15回	1				植竹		
第16回	1	理学療法評価 (オンデマンド)	評価法におけるバイタル測定、関節可動域検査、筋力検査、形態測定について理解を深める		植竹		
第17回	1				植竹		
第18回	1				植竹		
第19回	1				植竹		
第20回	1				植竹		
第21回	1				植竹		
第22回	1				植竹		
第23回	1				植竹		
第24回	1				植竹		
第25回	1				植竹		
第26回	1				植竹		
第27回	1				植竹		
第28回	1				植竹		
第29回	1				植竹		
第30回	1				植竹		
評価方法		出席状況、小テスト、筆記試験等をルーブリック評価を用いて総合的に評価する。					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	茂木 真 専任教員全員
38		理学療法技術論	開講時期	3年通年	担当者	茂木 真 専任教員全員
			授業時間	270		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	9 単位
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所) 講義開始前に指定する	
理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する。					キーワード	
教育目標該当項目: ③④						
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
第1回	1	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第2回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第3回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第4回	1	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第5回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第6回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第7回	1	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第8回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第9回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第10回	1	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第11回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第12回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第13回	1	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第14回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第15回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第16回	1	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第17回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第18回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第19回	1	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第20回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第21回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第22回	1	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第23回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第24回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第25回	1	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第26回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第27回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第28回	1	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第29回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第30回	2	専門領域	理学療法評価		専任教員	
第31回	1	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第32回	2	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第33回	2	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第34回	1	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第35回	2	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第36回	2	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第37回	1	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第38回	2	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第39回	2	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第40回	1	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第41回	2	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第42回	2	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第43回	1	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第44回	2	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第45回	2	専門領域	小児理学療法		専任教員	
第46回	1	専門領域	ADL領域		専任教員	
第47回	2	専門領域	ADL領域		専任教員	

第109回	1	専門領域	物理療法領域	専任教員
第110回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第111回	2	専門領域	物理療法領域	専任教員
第112回	1	専門領域	病理学領域	専任教員
第113回	2	専門領域	病理学領域	専任教員
第114回	2	専門領域	病理学領域	専任教員
第115回	1	専門領域	病理学領域	専任教員
第116回	2	専門領域	病理学領域	専任教員
第117回	2	専門領域	病理学領域	専任教員
第118回	1	専門領域	神経・筋疾患領域	専任教員
第119回	2	専門領域	神経・筋疾患領域	専任教員
第120回	2	専門領域	神経・筋疾患領域	専任教員
第121回	1	専門領域	神経・筋疾患領域	専任教員
第122回	2	専門領域	神経・筋疾患領域	専任教員
第123回	2	専門領域	神経・筋疾患領域	専任教員
第124回	1	専門領域	整形障害領域	専任教員
第125回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第126回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第127回	1	専門領域	整形障害領域	専任教員
第128回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第129回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第130回	1	専門領域	整形障害領域	専任教員
第131回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第132回	2	専門領域	整形障害領域	専任教員
第133回	1	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第134回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第135回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第136回	1	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第137回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第138回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第139回	1	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第140回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第141回	2	専門領域	中枢神経障害領域	専任教員
第142回	1	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第143回	2	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第144回	2	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第145回	1	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第146回	2	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第147回	2	専門領域	末梢神経障害領域	専任教員
第148回	1	専門領域	内部障害領域	専任教員
第149回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第150回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第151回	1	専門領域	内部障害領域	専任教員
第152回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第153回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第154回	1	専門領域	内部障害領域	専任教員
第155回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第156回	2	専門領域	内部障害領域	専任教員
第157回	1	専門領域	精神領域	専任教員
第158回	2	専門領域	精神領域	専任教員
第159回	2	専門領域	精神領域	専任教員
第160回	1	専門領域	精神領域	専任教員
第161回	2	専門領域	精神領域	専任教員
第162回	2	専門領域	精神領域	専任教員
評価方法	筆記試験100%により判断する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
39		地域理学療法学	開講時期	2年通年	吉川 将太		
			授業時間	90			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	3 単位	演習
科目概要・目的 理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、地域リハビリテーションの理念、歴史を理解し、介護保険法や関連法規を学び、地域で実践されているサービスについての理解を深めていく。グループワークを通して、模擬症例に対する介護保険サービスの利用を考え、知識を整理する。またオンデマンド授業を通じて各分野の理解を深める。 教育目標該当項目: ①②③④					教科書(著者/書名/発行所) 地域リハビリテーション学テキスト キーワード ADL、IADL、バリアフリーとユニバーサルデザイン、福祉用具、家族への指導サルコペニア、フレイル、廃用症候群、地域理学療法、がん、認知障害		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
第1回	2	地域リハビリテーションの理念・歴史	地域リハビリテーションの理念と歴史的背景、現在の動向について理解する		吉川		
第2回	2	地域リハビリテーションの理念・歴史	地域リハビリテーションの理念と歴史的背景、現在の動向について理解する		吉川		
第3回	2	地域理学療法	地域における理学療法の必要性を理解し、介入根拠を説明できる		吉川		
第4回	2	地域理学療法	地域における理学療法の評価・治療について説明できる		吉川		
第5回	2	地域における介入方法の実際	各施設、疾病、再発、障害予防での理学療法		吉川		
第6回	2	地域における介入方法の実際	健康維持、健康増進での理学療法		吉川		
第7回	2				吉川		
第8回	2				吉川		
第9回	2				吉川		
第10回	2				吉川		
第11回	2				吉川		
第12回	2				吉川		
第13回	1				吉川		
第14回	1				吉川		
第15回	1				吉川		
第16回	1				吉川		
第17回	1				吉川		
第18回	1				吉川		
第19回	1				吉川		
第20回	1		神経疾患について理解を深める		吉川		
第21回	1				吉川		
第22回	1				吉川		
第23回	1				吉川		
第24回	1				吉川		
第25回	1				吉川		
第26回	1				吉川		
第27回	1				吉川		
第28回	1				吉川		
第29回	1				吉川		
第30回	1	ふり返り (オンデマンド授業)			吉川		
第31回	1				吉川		
第32回	1				吉川		
第33回	1		がん、サルコペニア、フレイル、廃用症候群について理解を深める		吉川		
第34回	1				吉川		
第35回	1				吉川		
第36回	1				吉川		
第37回	1				吉川		
第38回	1				吉川		
第39回	1				吉川		
第40回	1				吉川		
第41回	1				吉川		
第42回	1				吉川		
第43回	1				吉川		
第44回	1		地域理学療法について理解を深める		吉川		
第45回	1				吉川		
第46回	1				吉川		
第47回	1				吉川		

第48回	1			吉川
第49回	1			吉川
第50回	1			吉川
第51回	1			吉川
第52回	1			吉川
第53回	1			吉川
第54回	1			吉川
第55回	1		認知障害について理解を深める	吉川
第56回	1			吉川
第57回	1			吉川
第58回	1			吉川
第59回	1			吉川
第60回	1			吉川
第61回	1			吉川
第62回	1			吉川
第63回	1	ふり返し		吉川
第64回	1	(オンデマンド授業)		吉川
第65回	1			吉川
第66回	1			吉川
第67回	1			吉川
第68回	1			吉川
第69回	1			吉川
第70回	1			吉川
第71回	1			吉川
第72回	1		その他の疾患について理解を深める	吉川
第73回	1			吉川
第74回	1			吉川
第75回	1			吉川
第76回	1			吉川
第77回	1			吉川
第78回	1			吉川
評価方法	出席状況、小テスト、課題の提出状況、筆記試験にて評価する。			

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
40	○	臨床実習 I	開講時期	1年後期	担当者	茂木 真	
			授業時間	45			
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					単位数	1 単位	実習
科目概要・目的 老人デイケア8年間の実務経験の理学療法士を中心に、関連施設の臨床現場を見学し、医療人・社会人としての意識を高め、自己が目指す理学療法士という職業を再確認する。今後の学習の必要性を認識し、学習意欲を高める動機づけにする。また、患者や職員と関わることで、コミュニケーション能力を高める。 教育目標該当項目: ①②③④⑤					教科書(著者/書名/発行所)		
					キーワード		
					対人関係技法・医療面接・インフォームドコンセント・個人情報、情報管理		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標			担当教員	
		①医療人・社会人としての意識を持つことができる。 ②理学療法士の業務を見学することで、これからどんな学習が必要なのかを認識できる。 ③自分が目指している職業(理学療法士)を具体的にイメージできる。	関連施設にて見学実習を行う。			専任教員	
評価方法		臨床実習要綱に従う(別紙参照)					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
41	○	臨床実習Ⅱ	開講時期	2年後期	瀬戸 勲		
			授業時間	45		単位数	1単位
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
科目概要・目的 理学療法士として5年間（一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年）の実務経験の理学療法士を中心に、地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における実施機関・施設（訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等）での見学実習を通して学ぶ。 教育目標該当項目： ①②③④⑤					教科書（著者/書名/発行所） キーワード 地域理学療法・介護保険法・Community-based-rehabilitation・地域包括ケア		
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
		①職員、対象者に対して適切な態度でコミュニケーションをとれる。 ②各施設で提供しているサービス内容を見学する。 ③各施設での理学療法士の業務内容と役割を見学する。 ④対象者の理学療法ニーズを考えることができる。 ⑤理学療法に必要な人的資源について考えることができる。 ⑥理学療法に必要な制度的資源について考えることができる。 ⑦理学療法に必要な経済的資源について考えることができる。	臨床現場の各施設にて見学実習を行う。		専任教員		
評価方法		臨床実習要綱に従う（別紙参照）					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者		
42	○	臨床実習Ⅲ	開講時期	3年前期	吉川 将太		
			授業時間	270		単位数	6 単位
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
科目概要・目的 一般病院1年と診療所10年間の実務経験の理学療法士を中心に、医療人としての資質の育成を育み、理学療法士としての業務や役割について理解を深める。また実習施設の機能や特徴を把握し、対象となる方を取り巻く、人との関わりについて考える。様々な対象となる方を通じて基本的な検査項目を臨床実習指導者のもと見学・模倣することで知識や技術の研鑽を行うことを目的とする。					教科書(著者/書名/発行所) キーワード 情報収集・リスク管理・情報収集・結果の解釈		
教育目標該当項目: ①②③④⑤							
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員		
		①対象となる方に必要な情報を考えることができる。 ②基本的な検査測定を行う際のリスクの必要性について考えることができる。 ③基本的な検査測定に必要な準備をすることができる。 ④基本的な検査測定が模倣できる。 ⑤検査結果の記録を残すことができる。 ⑥検査結果を報告できる。	臨床現場の各施設にて評価実習を行う。		専任教員		
評価方法		臨床実習要綱に従う(別紙参照)					

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者	植竹 教嗣
43	○	臨床実習Ⅳ	開講時期	3年前期		
			授業時間	270		
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			単位数	6単位 実習
科目概要・目的					教科書(著者/書名/発行所)	
6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅲで学んだ知識や基本的な検査項目の見学・模倣に加え、臨床実習指導者のもと対象となる方への基本的な検査項目の実施及び治療を見学し、医療専門職としての責任ある態度や行動を学ぶ。対象となる方に応じた評価を見学・模倣・実施すること及び基本的な理学療法手段の見学を目的とする。					キーワード	
教育目標該当項目: ①②③④⑤					統合と解釈・ICF	
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員	
		①対象となる方に必要な情報を考えることができる。 ②基本的な検査測定を行う際のリスクの必要性について考えることができる。 ③基本的な検査測定に必要な準備をすることができる。 ④基本的な検査測定が模倣できる。 ⑤検査結果の記録を残すことができる。 ⑥検査結果を報告できる。 ⑦基本的な検査測定を模倣・実施できる。 ⑧基本的な理学療法手段を見学し、考えることができる。	臨床現場の各施設にて総合臨床実習を行う。		専任教員	
評価方法		臨床実習要綱に従う(別紙参照)				

コード番号	企業との連携	科目名	分野	専門	担当者
44	○	臨床実習Ⅴ	開講時期	3年後期	瀬戸 勲
		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	授業時間	315	
科目概要・目的 理学療法士として5年間(一般病院で4年、訪問看護ステーションで1年)の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅲ・Ⅳで体験した理学療法評価の実施及び基本的な理学療法手段の見学に加え、対象となる方に応じた基本的な理学療法手段を模倣することでさらに自己研鑽することを目的とする。					単位数 7 単位 実習 教科書(著者/書名/発行所) キーワード 目標設定・理学療法プログラム立案
教育目標該当項目: ①②③④⑤					
回数	時間	テーマ	授業内容・到達目標		担当教員
		①対象となる方に必要な情報を考えることができる。 ②基本的な検査測定を行う際のリスクの必要性について考えることができる。 ③基本的な検査測定に必要な準備をすることができる。 ④基本的な検査測定が模倣できる。 ⑤検査結果の記録を残すことができる。 ⑥検査結果を報告できる。 ⑦基本的な検査測定を模倣・実施できる。 ⑧基本的な理学療法手段を見学し、考えることができる。 ⑨基本的な理学療法手段を模倣することができる。	臨床現場の各施設にて総合臨床実習を行う。		専任教員
評価方法		臨床実習要綱に従う(別紙参照)			